

平成25年産「彩のきずな」実証ほ結果について

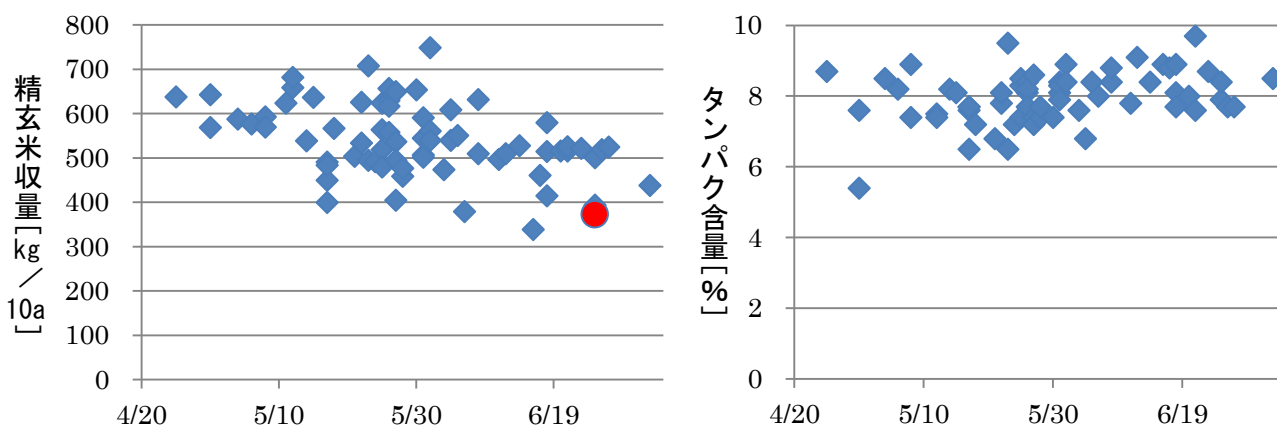
生産振興課

1 実証ほの設置状況

100haの実証ほを36市町に設置

2 実証ほ成績

(1) 移植期毎の成績突合



※●は水田研にて行った作柄調査のキヌヒカリ精玄米収量

(2) 農産物検査結果（全農埼玉県本部入庫）

品種	等級比率			
	1等	2等	3等	規格外
彩のきずな	85.9	10.5	3.6	—
キヌヒカリ	62.9	28.5	8.1	0.5

3 実証ほ担当者の考察

- 平成25年はイネ縞葉枯病の発生が多く、「キヌヒカリ」等で収穫量が減となったが、「彩のきずな」はイネ縞葉枯病の抵抗性があり、代替品種として有望である。
- 短秆（草丈が低い）で倒伏しにくく、栽培しやすい。
- 生産者、米穀販売業者、消費者による試食会では、食感がよいとの評価であった。
- 高温期の登熟でも白未熟粒の発生が少なく、整粒歩合が高い。
- △ 紋枯病の発生が見られ、上位葉まで進展することもある。
- △ 出穂がばらつき、収穫時期の判断が難しい